



A FILM FOR OUR TIMES

アカデミー賞受賞作『アイム・スティル・ヒア』
軍事独裁政権にあらがう家族を描き
ブラジルの「記憶」を映し出す

冷戦期のブラジル軍事独裁政権下で起きた、ある家族の悲劇と奮闘を描いた映画『アイム・スティル・ヒア』（日本公開8月8日）。今年度のアカデミー賞国際長編映画賞を受賞した本作で主人公を演じたフェルナンダ・トーレスと監督のウォルター・サレスが、演技に込めた思いや、本作制作の意図、独裁政権時代のブラジルの「記憶の再構築」の重要性、そして本作が現代世界において持つ意義について語った。



番組ホスト

クリスティアン・アマンプール

イラン人の父と英国人の母を持つ。生まれはロンドンだが、幼少期はテヘランで過ごした。英国でジャーナリズム養成講座を修了。渡米し、ロードアイランド大学でジャーナリズムを専攻し、首席で卒業。1983年、CNNに入社。数々の紛争地帯で現地取材を行い、ジャーナリストとして高い評価を得ている。2021年に卵巣がんで卵巣の摘出手術を行ったことを発表。現在も第一線で活躍する。

ゲスト

フェルナンダ・トーレス

映画、テレビ、舞台、文学と多岐にわたる分野で活躍を続けるブラジルを代表する表現者。1986年、アルナルド・ジャボール監督の『Eu Sei que Vou Te Amar』でカンヌ国際映画祭女優賞を受賞。2001年から03年に放送されたTVコメディシリーズ『Os Normais』で主演を務め、国民的な人気を博す。『アタイム・スティル・ヒア』で第82回ゴールデングローブ賞主演女優賞を受賞。



Listening Quiz

67 演じるキャラクターに「忠実であろうとした」

Next, to Brazil and a cautionary tale about the military dictatorship backed by the United States at the height of the Cold War. Now, an Oscar-nominated film explores this dark history.*

I'm Still Here, with Fernanda Torres, is a moving portrayal of a woman fighting for justice after her husband is arrested and assassinated by the military junta; based on the true story of a political dissident, Rubens Paiva, and his widow, Eunice, who fights a long and lonely battle for truth and accountability while also trying to stay strong for the five children she's been left to raise alone. I spoke to the acclaimed actress, and director Walter Salles, about the film's relevance right now, decades on from the events which inspired it.

* * *



Christiane Amanpour Fernanda Torres and Walter Salles, welcome to the program. Great to see you. It was an amazing film, particularly for our times.

Fernanda, you play the heroine, Eunice Paiva. It's the true story of her husband, who gets arrested, and later, we find out what happens to him. You're the mother of five children, and it's set during the dictatorship that emerges in Brazil—a US-backed dictatorship, by the way. Just give me the idea of what you were trying to portray, Fernanda.



Fernanda Torres First, I was trying to be faithful to this great woman called Eunice Paiva, who was raised to be

cautionary tale:

教訓的な話、訓話

military dictatorship:

軍事独裁 (政権)

backed by:

～に支持された

at the height of:

～のさなかに、～の最盛期に

Oscar-nominated:

アカデミー賞にノミネートされた

explore:

～を探索する、掘り下げる

moving:

感動的な

portrayal:

描写、(芸術作品で) 描くこと

justice:

正義、公正

assassinate:

～を暗殺する

military junta:

(クーデター後の) 軍事政権

political dissident:

反体制派の人

widow:

夫を亡くした女性

accountability:

説明責任 (の遂行)

acclaimed:

高く評価された、称賛を浴びた

relevance:

(現在の現実世界との) 関連性、存在意義

inspire:

(芸術作品など) のインスピレーションの元となる

set A during B:

A (物語) の背景をBの時代に設定する

emerge:

台頭する、現れる

portray:

～を表現する、描く

be faithful to:

～に忠実である



ゲスト

ウォルター・サレス

ブラジルの映画監督。1998年に監督した『セントラル・ステーション』は、ベルリン国際映画祭で金熊賞を受賞。04年の『モーターサイクル・ダイアリーズ』は、若き日のチェ・ゲバラの南米縦断を描き、アカデミー賞歌曲賞ほか多数の映画賞を受賞。『アイム・スティル・ヒア』は第97回アカデミー賞で作品賞を含む3部門にノミネートされ、国際長編映画賞を受賞した。

In Session with
Amanpour

*お聞き苦しい箇所がありますが、放送時のものです。ご了承ください。

次は、ブラジルの話題です。冷戦のさなか、アメリカが後押しした軍事独裁政権下で起きた（現代への）警告ともいえる話について取り上げます。あるアカデミー賞ノミネート作品がこの暗黒の歴史を掘り下げています。

フェルナンダ・トーレス主演の映画『アイム・スティル・ヒア』は、軍事政権に夫を逮捕され、そして暗殺された後、正義のために闘い続けたとある女性を描いた感動作です。反体制派のルーベンス・パイヴァと彼を亡くした妻エウニセの実話を元に作られました。エウニセは、（夫の死をめぐる）真実と（政権の）責任を問う長く孤独な闘いを続けながら、彼女一人で育てることになってしまった5人の子どものために強くあり続けようとしていました。高い評価を得ているその女優と、監督のウォルター・サレス氏に、この映画の元となった出来事から数十年たった今、この映画が持つ現代的意義について伺いました。

* * *

クリスティアン・アマンプール フェルナンダ・トーレスさん、ウォルター・サレス監督、当番組へようこそ。お会いできて光栄です。素晴らしい映画でした、特に現在の状況に照らし合わせると。

フェルナンダさん、あなたは主人公のエウニセ・パイヴァを演じられました。これは彼女の夫の実話を元にしています。彼は逮捕され、後に（映画の中で）彼に何が起こったかわかることになります。あなた（が演じるエウニセ）は5人の子どもの持つ母親で、舞台はブラジルで独裁政権が生まれた頃です——その独裁政権はアメリカの後押しを受けていたのですが。フェルナンダさん、（演じるにあたって）何を表現しようとなさいましたか。

フェルナンダ・トーレス 何よりも私は、エウニセ・パイヴァというこの偉大な女性に忠実であろうと努めました。彼女はいかにも50年代らし



『アイム・スティル・ヒア』
2025年8月8日（金）より新宿武蔵野館ほか全国ロードショー
配給：クロックワークス
©2024 VideoFilmes/RT Features/Globoplay/Conspiração/MACT Productions/ARTE France Cinéma

■ STORY

1970年、軍事独裁政権が支配するブラジル。元国会議員ルーベンス・パイヴァとその妻エウニセは、5人の子どもたちと共にリオデジャネイロで穏やかな暮らしを送っていた。しかしスイス大使誘拐事件を機に空気は一変、軍の抑圧は市民へと雪崩のように押し寄せる。ある日、ルーベンスは軍に連行され、そのまま消息を絶つ。突然、夫を奪われたエウニセは、必死にその行方を追いつけるが、やがて彼女自身も軍に拘束され、過酷な尋問を受けることとなる。数日後に釈放されたものの、夫の消息は一切知らされなかった。沈黙と闘志の狭間で、それでも彼女は夫の名を呼び続けた——。自由を奪われ、絶望の淵に立たされながらも、エウニセの声はやがて、時代を揺るがす静かな力へと変わっていく。